

海外における狂犬病の発生について

狂犬病は、日本やオーストラリアなどの一部の国、地域を除き、世界中で発生している感染症です。

狂犬病が発生している国や地域で、犬やその他の野生動物（哺乳類）に咬まれたり、引っ掻かれたりした場合は、速やかに医療機関を受診してください。

狂犬病とは

- (1) 狂犬病の犬にかまれて感染することが多いので「犬」と名がついていますが、他の哺乳動物（猫、アライグマ、キツネ、スカンク、コウモリなど）からも感染します。特に犬や猫では、感染により異常行動（凶暴になる等）をとり、これらの動物に咬まれたり、引っ掻かれたり、傷口をなめられたりすることにより人に感染します。
- (2) 日本では 1957 年以降発生はみられません。オーストラリアなど一部の国、地域を除き、欧米を含む世界の大陸で、現在も 3 万人以上の死亡患者が出ています。

症状

ヒトの場合、潜伏期間は通常 1～3 ヶ月程度で、発症するかどうかは咬まれた部位、傷口の大きさや体内に入ったウイルス量などで大きくかわります。発症すると有効な治療はなく、100%死亡します。

症状は、潜伏期後、かまれた傷口の知覚異常、発熱、頭痛、全身倦怠、嘔吐などの不定症状で始まり、その後不安感、恐水症（水を飲む時に喉の筋肉に痙攣が生じる）、興奮や麻痺、錯乱などの神経症状が現れ、数日後に呼吸麻痺で死に至ります。

予防方法

狂犬病が発生している国や地域において、野犬や野良猫、野生動物に手を出さないようにして下さい。渡航先で動物に接触する必要がある場合、または近くに狂犬病のワクチン接種可能な医療機関がない場合には、事前に狂犬病ワクチンを接種するようにして下さい。

咬まれた時等の対処方法

狂犬病ウイルスを持っている恐れのある動物に咬まれたり、引っ掻かれた場合には、まず傷口を石鹸と水でよく洗い流します。次に、できるだけ早く病院で、傷口の治療を行い、狂犬病のワクチンを接種（複数回）します（狂犬病対策とともに、破傷風対策のため破傷風ワクチンの接種もお勧めします）。

なお、ワクチンは出来るだけ速やかに接種することが重要です。

狂犬病の発生状況（2001 年，WHO）

